

第4次

人吉市子ども読書活動推進計画



令和4年（2022年）3月

人吉市教育委員会

目次

はじめに	1
第1章 計画の策定にあたって	2
1 計画策定の背景	
2 人吉市子ども読書活動推進計画の経緯	
3 第3次人吉市子ども読書活動推進計画の成果と課題	
第2章 基本的な考え方	12
1 計画の目標	
2 計画の位置づけ	
3 計画の対象	
4 計画の期間	
第3章 子どもの読書活動推進のための取り組み	14
目標Ⅰ 子どもが読書に親しむ機会の提供	14
(1) 家庭における子どもの読書活動の推進	
(2) 地域における子どもの読書活動の推進	
(3) 幼稚園・保育園・認定こども園における子どもの読書活動の推進	
(4) 学校における子どもの読書活動の推進	
目標Ⅱ 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備と充実	18
(1) 図書館における施設及び読書環境の充実	
(2) 幼稚園・保育園・認定こども園及び学校の読書環境の充実	
(3) 地域の読書環境の充実	
目標Ⅲ 図書館・学校・地域ボランティアなどとの連携の強化	20
(1) 図書館・学校・地域ボランティアとのパートナーシップによる取り組みの推進	
目標Ⅳ ユニバーサルデザインの視点を踏まえた子どもの読書活動の推進	21
(1) 誰もが楽しめる図書の整備とサービスの提供	
目標Ⅴ 子どもの読書活動を推進するための啓発と広報の推進	21
(1) 子どもの読書活動推進のための各種イベントの開催	
(2) 子どもの読書活動推進のための情報の収集・提供	
第4章 子どもの読書活動推進体制の充実	23
1 人吉市子ども読書活動推進会議の図書館への継続的な支援	
2 関係機関との連携・協力	
★資料	
①第4次人吉市子ども読書活動推進計画の体系	24
②子どもの読書活動に係るアンケート調査結果	27
③令和3年度人吉市子ども読書活動推進会議委員名簿	31

はじめに

「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」、との基本理念の下、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が施行され、国・県や市町村が果たすべき役割がその中で示されました。それを受け、平成14年8月には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が国により策定され、平成16年7月には熊本県が「肥後っ子いきいき読書プラン（熊本県子どもの読書活動推進計画）」を策定しました。

本市では平成19年3月に「人吉市子ども読書活動推進計画」、平成24年3月に「第2次計画」、平成29年3月に「第3次計画」をそれぞれ策定し、子どもの読書環境の充実等に取り組んでまいりました。

その第3次計画が令和3年度で5年の計画期間を満了するにあたり、第3次計画期間における成果や課題を総括したうえで、引き続き本市のすべての子どもたちが読書に親しむ機会を増やしながらか読書の習慣が身に付くよう、「第4次人吉市子ども読書活動推進計画」を策定し、更なる子どもの読書活動推進に努めてまいります。

なお、本計画の策定にあたり、貴重な御意見をいただきました「人吉市子ども読書活動推進会議」の委員の皆様を始め、多くの御意見をお寄せいただきました市民の皆様、アンケート調査等に御協力をいただきました皆様から心から御礼を申し上げます。



令和4年3月

人吉市教育委員会

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の背景

子どもは、読書体験を通して、言葉を学び、感性を磨き、表現力や創造力を豊かにしていきます。また、読書体験により思いやりのある豊かな心を育むなど、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で、子どもにとって読書は欠かすことができないものです。

しかし、現在の少子高齢化や核家族化の社会においては、地域社会の人間関係の希薄化が進み、経済格差などにより、子どもを取り巻く読書環境は大きく変化してきています。

また、子どもたちのICT機器を利用する時間は増加傾向にあって、あらゆる分野の多様な情報に触れることがますます容易になる一方で、視覚的な情報と言葉の結び付きが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことが少なくなっているのではないかとの指摘もあっています。

このような状況にあって、学校図書館法の一部を改正する法律が成立し、学校に学校司書を置くように努めなければならないことや、学校司書への研修等について新たに規定されました。また、学習指導要領の改訂も実施され、小学校、中学校及び高等学校の新学習指導要領において、図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童生徒の主体的、意欲的な読書活動を充実することが規定されました。

併せて、本市図書館においては、新型コロナウイルスの感染拡大や令和2年7月豪雨災害による臨時休館の影響により、令和2年度において利用者、貸出冊数がともに激減し、ブックスタート※や人吉球磨児童による童話発表大会、図書館まつりなど、全てのイベントを中止せざるを得ませんでした。今後はウィズコロナ・アフターコロナ時代に即した図書館運営や、豪雨災害記録の収集・保存など、新たな課題や役割に柔軟かつ迅速に対応していくことが求められます。

これらを背景に、「第4次人吉市子ども読書活動推進計画」を策定しましたが、計画策定にあたっては、国の「第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」及び熊本県の「第4次肥後っ子いきいき読書プラン」、「第3次人吉市教育振興基本計画」などを踏まえ、第3次計画の成果・課題等の点検評価、子どもたちの読書に関する意識調査等を実施したうえで、「人吉市子ども読書活動推進会議」において審議を行っていただきました。

※ブックスタートとは絵本を通して赤ちゃんと保護者が楽しいひとときを分かち合うことを応援する運動で、1992年にイギリスで始まりました。

2 人吉市子ども読書活動推進計画の経緯

●第1次子ども読書活動推進計画

【計画期間】 平成19（2007）年度～平成23（2011）年度

●第2次子ども読書活動推進計画

【計画期間】 平成24（2012）年度～平成28（2016）年度

●第3次子ども読書活動推進計画

【計画期間】 平成29（2017）年度～令和3（2021）年度

●第4次子ども読書活動推進計画

【計画期間】 令和4（2022）年度～令和8（2026）年度

3 第3次人吉市子ども読書活動推進計画の成果と課題

第3次計画は、乳幼児期から始まる読書との関わりが深まるよう、周囲の読書環境を充実させ、子どもの読書活動を推進することを目指し、「第2章 基本的な考え方」の中で4つの目標を掲げ、さらに「第3章 子どもの読書活動推進のための取り組み」において目標を達成するための指針や具体的な取り組みをそれぞれ掲げました。

ここでは、それぞれの目標に対する具体的な取り組みの現状と課題を整理します。

目標Ⅰ 子どもの読書機会の提供

(1) 家庭における子どもの読書の機会の充実について

☆具体的な取り組み

- ①読み聞かせによる読書の習慣化
- ②読書に親しむような施策
- ③家読時間の推進
- ④ブックスタート

【現状】

家庭においては、保護者自身が読書に対する理解を深めるとともに、読書を楽しむことが大切です。図書館では、「良い絵本」・「絵本賞受賞作品」など優良図書の紹介や、赤ちゃんの7か月健診時における「ブックスタート」の実施、「おはなし会」の定期的な開催などを通じて、家庭での読み聞かせや、子どもと一緒に本を読む時間が設けられるよう働きかけました。

市内の幼稚園・保育園・子ども園と小学3年生の保護者に対するアンケートでは86.2%の保護者が0歳から1歳の乳児期に初めて本を読んであげており、41.8%の保護者が週に1回以上子どもに本を読んであげているとの結果がでています。

ブックスタートでは子どもたちに対する読書の大切さを説明するとともに、実際に読み聞かせを行ったり、パンフレット「赤ちゃんおすすめの絵本70冊」を配布して優良絵本の紹介などを実施しています。ブックスタートをきっかけに図書館に来館された保護者もいらっしゃいました。

○ブックスタート参加者数

(単位：人)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
258	249	231	201	45

「おはなし会」は毎月第一、第三水曜日の午前11時から、読み聞かせボランティアのご協力により定期的で開催しました。令和元年度からは夏休みなど長期休業中に、プラネタリウムを鑑賞された学童保育児への読み聞かせをボランティアのご協力により実施することができました。

○おはなし会参加者数

(単位：人)

平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
75	106	206	183	—

【課題】

少子化の影響により「ブックスタート」の参加者が年々少なくなっている状況ですが、保護者一人ひとりとお話する時間は増やすことが可能です。今後はより一層丁寧な説明や保護者に寄り添った対応が必要です。

「おはなし会」については、毎月2回の定期会参加者が少ない状況だったため、平成30年度からプラネタリウム鑑賞の前後に活用を呼びかけたところ、特に学童保育児の夏季利用があり参加者が増えました。

令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染拡大や令和2年7月豪雨災害の影響により、「おはなし会」や対面での「ブックスタート」が実施できなくなりました。ワクチン接種などにより新型コロナウイルス感染の危険性が収束するまで再開は難しいと思われませんが、収束後はより充実した内容で事業が再開できるよう、準備を進めていく必要があります。

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

☆具体的な取り組み

- ①社会教育団体への働きかけ
- ②移動図書館車・貸出文庫を活用した図書室資料の充実支援
- ③地域ボランティアと学校等が連携した取り組みの支援

【現状】

地域社会全体で子どもの読書活動を推進するため、図書館を中心に、保健センター、子育て支援施設、校区コミュニティセンターなどと連携・協力し、子どもが様々な場所で本に親しむことができるよう、環境整備を行いました。

子育てを支援する「人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ」では、図書館の貸出文庫から、年4回（1回につき200冊から300冊）貸し出しを行い、多くの子育て中の保護者にご利用いただきました。

なお、校区コミュニティセンターへの移動図書館車の巡回は、利用者がほとんどいなかったことから全ての校区公民館長と協議の上、平成30年度をもって休止し、令和元年度から第一・第二中学校への巡回に切り替えました。

【課題】

令和2年7月豪雨災害により、子育て支援「人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ」の拠点施設も被災し、従前の連携が困難となっています。できるだけ早い復旧と連携が望まれますが、併せて、図書館利用者の中に学童保育やこども食堂などの地域支援を行っている方もおられることから、このような個人や団体との連携も模索していく必要があります。

なお、校区コミュニティセンターのうち、東西コミュニティセンターと西瀬コミュニティセンターが、豪雨災害により図書室の書籍が汚損していることから、施設復旧後には蔵書充実の支援を行っていく必要があります。

(3) 学校における子どもの読書活動の推進

☆具体的な取り組み

- ①自主的な読書活動への取り組み
- ②蔵書冊数の整備・充実
- ③インターネットを活用した情報の収集・提供
- ④学習活動を支援するための市図書館の活用
- ⑤地域ボランティアとの連携
- ⑥担当職員のスキルアップ

【現状】

子どもが日常生活を送る場の大半が学校であり、学校は子どもが読書に対する関心や習慣を育むための重要な場所です。

これまで学校図書館は、豊かな心を育むための「読書センター」としての機能と、学習活動を支援する「学習・情報センター」としての機能を果たしてきました。「活字離れ・読書離れ」が指摘されていますが、各学校では全校一斉読書や、ボランティア・保護者による読み聞かせ、委員会活動などによる読書推進活動が積極的に進められています。

図書館でも移動図書館車巡回での学校図書館機能の補完をはじめ、インターネット環境の整備や調べ学習のための貸出文庫による学習支援、読み聞かせ講習会や学校図書事務担当者研修会を通じて地域ボランティア、担当職員のスキルアップなどに取り組みました。

【課題】

市内全小中学校の「学校図書館図書標準」の達成を目指し、今後も計画的に蔵書の点検や選書、図書館システム導入の検討などを行っていく必要があります。

図書館においても、調べ学習用の蔵書の充実を図るとともに、ICT学習支援に向けた取り組みが必要です。

なお、地域ボランティアや学校図書事務担当者に対する支援も継続し、更なる連携、協力を図っていく必要があります。

(4) 保育園・幼稚園等における子どもの読書活動の推進

☆具体的な取り組み

- ①進んで本を読む子の育成
- ②保護者への情報提供
- ③小学校との連携・協力

【現状】

移動図書館車の巡回用の図書を、2歳児未満用と3歳児から6歳児用に分類することで、適切な本を適切な年齢の子どもたちに提供できました。幼稚園・保育園・こども園での巡回の際は、園児自らが本を選び、友達同士で本についてお話しするなど、絵本や物語に興味や関心を持ち、進んで本を読む子どもが増えているようです。

なお、図書館では保護者に対し、広報ひとよしや図書館だより、HPなどを通じ、図書館や本、読み聞かせなどに関する情報を発信しています。

また、毎年実施している幼児による人吉球磨読書感想画コンクールには、園の協力により毎年たくさんの力作の応募をいただき、図書館まつりで全ての作品の展示を行いました。

【課題】

図書館と園との連携のほとんどが移動図書館車の巡回であることから、滞在時間を延ばしたり、新たな機会を設けるなど、園との連携をさらに深めていくことが求められます。

近年、園の行事や読み聞かせで大型絵本や紙芝居の貸し出しが増えているため、今後もさらに蔵書を増やし、活用促進を図るための広報が重要です。

なお、新学習指導要領において、幼児期の学びから小学校低学年の小学校生活への円滑な接続が掲げられていることから、図書館として支援できることを検討していく必要があります。



目標Ⅱ 子どもの読書活動を推進するための読書環境の充実

(1) 市図書館における施設及び読書環境の充実

☆具体的な取り組み

- ①発達段階に応じた良質図書の収集
- ②障がいのある子どもに配慮した資料の収集
- ③ヤングアダルト（12歳から19歳）図書の収集
- ④子ども向け郷土資料の発掘・収集
- ⑤インターネット環境の提供
- ⑥快適な読書スペースの整備

【現状】

乳幼児向けの「赤ちゃん絵本」をはじめ、幼児向けの「絵本大賞受賞作品」、小学生から高校生を対象とした読書感想文・感想画課題図書、緑陰図書（夏休み推薦図書）のほか、読書離れの傾向が強い年齢を対象とした「ヤングアダルト」図書など発達段階に応じた良質図書を幅広く収集、提供しました。併せて、点字絵本や誰もが読書を楽しめるように工夫して作られた、やさしく読みやすい本である「LL※ブック」は出版数が少ない中、積極的に収集しました。

また、配架スペースが限られている中、新たに本棚を設置し、併せて古い図書や重複図書を整理・除籍して快適な読書スペースの確保に努めました。

※LLは、スウェーデン語のLättläst（レットラスト）の略で、“やさしくてわかりやすい”という意味です。

○図書館の蔵書構成と推移

(単位：冊)

年度・種別	一般書	児童書	計
平成30年度	72,053	28,710	100,763
令和元年度	72,959	29,295	102,254
令和2年度	73,956	29,546	103,502

(視聴覚資料・雑誌などを除く)

【課題】

本市では行財政健全化計画を策定し、健全財政確保のため予算の削減・縮小が進められています。図書購入費も例外ではありませんが、発達段階に応じた良質図書や、障がいのある子どもに配慮した資料などについては、継続して積極的に収集していく必要があります。

なお、昭和59年に現在の場所に移転した図書館ですが、既に37年が経過し、当時と現在では図書館に求められるニーズや機能が大きく変化しています。読書や学習を行うための静寂空間と児童コーナーが同一の空間にあるため、楽しく、時には音楽を伴った読み聞かせが行えなかったり、子どもがぐずって泣いたりすることで来館をためらう保護者も少なくありません。令和4年度の新市庁舎の完成に伴い、仮本庁舎機能移転後の図書館の在り方について十分検討を行ったうえで、図書館スペースの増床と学習室の確保、児童コーナーの拡充などを推進していく必要があります。

(2) 保育園・幼稚園及び学校等の読書環境の充実

☆具体的な取り組み

- ①移動図書館等による資料充実支援
- ②情報誌を活用した優良図書・推薦図書の紹介
- ③研修の積極的な受け入れ
- ④総合的学習などに配慮した資料の収集
- ⑤学校図書館との情報共有化

【現状】

図書館では令和元年12月に宝くじ助成金を活用して移動図書館車「新さわやか号」を購入しました。それまでの1.4t車よりも積載量の多い2t普通貨物乗用車を採用したことで、積載冊数も500冊程度増え、より多くの図書を子どもたちへ届けることが可能となりました。

また、貸出文庫や調べ学習用の図書に関しても、近年話題になっている「SDGs」や「感染症」などに関する図書の収集及び充実を行いました。

広報ひとよしや図書館だより、館内展示などで優良図書や推薦図書の紹介を行っていますが、紹介した図書に関するお問い合わせがあるなど、好評を得ています。

なお、毎年、子どもたちが図書館を身近な場所と感じてもらえるよう、秋の読書週間で「一日司書体験」を実施したり、中学生や高校生のインターンシップを受け入れましたが、令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大や7月豪雨の影響で中止せざるを得ませんでした。

また、学校図書館担当者研修会は、図書館・他校との情報交換やそれぞれの技術向上の場として大きな成果がありました。

【課題】

移動図書館車用の書庫が狭いため、所蔵できる図書の数が限られています。図書資料も古く修理された図書が多く、利用されていない本の整理や除籍を検討する必要があります。また、貸出文庫や調べ学習に関する資料も図書館が狭いため、新たに収集することが難しい状況にあり、定期的な整理・除籍が必要です。



今後も図書館を身近に感じられるよう、一日司書体験やインターンシップ受入を継続していくことが重要ですが、ウィズコロナ・アフターコロナ時代の図書館として創意工夫し、感染防止に配慮する必要があります。

学校図書館担当者とは、移動図書館車の巡回時にコミュニケーションを図りながら、併せて研修会などを通じ、更なる情報共有や連携、協働を推進していくことが重要です。

(3) 地域の読書環境の充実

☆具体的な取り組み

①地域ボランティアの活動支援

【現状】

先に述べたように、「人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ」へ定期的に多数の貸出文庫を提供し、子育て世代の読書推進と読み聞かせなど図書の利用を図ることが出来ました。

併せて、熊本県の「肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業」を活用した絵本の読み聞かせ講習会を開催し、人吉球磨地域においてボランティアで読み聞かせを行っている方、これからやってみたいと思われている方の技術の習得、スキルアップを図りました。

【課題】

新型コロナウイルス感染拡大や令和2年7月豪雨の影響により、「人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ」との連携や、読み聞かせボランティアによる「おはなし会」「読み聞かせ講習会」などの再開が困難な状況です。

目標Ⅲ 図書館、学校、地域及び民間団体等との連携と人材の育成

(1) 図書館・学校・地域・民間団体等との取り組みの推進について

☆具体的な取り組み

①学校における子どもの読書活動の推進

【現状】

令和元年度から市全域に展開された地域学校協働本部の支援活動の一環として、登録ボランティアによる絵本の読み聞かせが各学校で実施されています。また、各学校の保護者も積極的に協力されています。図書館では「広報ひとよし」で大型絵本や大型紙芝居の情報を発信するとともに、これらを主に活用されているボランティアの方々との交流や読み聞かせ講習会などを通じ、情報交換や連携の強化を推進しました。

【課題】

図書館の大型絵本や大型紙芝居を活用されているボランティアがほぼ限られています。今後はボランティア同士の交流や「読み聞かせ講習会」の再開によるワークショップ等の実施により、それぞれのつながりや、ボランティア活動の地域への広がりを進めていく必要があります。



目標Ⅳ 子どもの読書活動推進のための啓発

(1) 子どもの読書活動推進のための各種行事の開催

☆具体的な取り組み

- ①図書館を中心とした行事の開催による読書活動推進の啓発
- ②読書感想画作品募集
- ③図書館と学校の共催による啓発

【現状】

熊本地震の影響により市役所仮本庁舎機能がカルチャーパレスに移転したことから、「子ども読書フェスタ」などの中止や「図書館まつり」の内容の一部変更を行いました。カルチャーパレスと合同開催の「七夕お楽しみ会」や図書館まつりでの読書感想画応募全作品の展示並びに表彰、「人吉球磨児童による童話発表大会」などを開催し、子どもはもちろん保護者や地域の方々にも楽しんでいただき、図書館の更なる利用促進を図ることができました。

併せて、平成30年度から図書館や移動図書館車の利用促進、啓発を図り市民の読書活動を推進するとともに、街なかの賑わい創出に資するため、中心市街地で開催されている「人吉ふれあい100円商店街」へ移動図書館車を派遣しました。

【課題】

新型コロナウイルス感染拡大や令和2年7月豪雨の影響により、令和2年度の全てのイベントを中止せざるを得ませんでした。また、図書館の長期臨時休館により、利用者・貸出冊数共に激減し、利用者の図書館離れが進みました。

また、童話発表大会に関しては令和2年度に「熊本県童話発表大会」と「人吉球磨児童による童話発表大会」の終了が決定されたことから、本市独自の対応が必要になりました。

(2) 子どもの読書活動推進のための情報の収集・提供

☆具体的な取り組み

- ①各種団体の取り組みや活動状況の把握、情報の共有と活用
- ②熊本県、日本図書館協会、先進的な事例の情報提供と行事等での講演会の開催
- ③ICT（情報通信技術）を活用した図書館情報の収集・提供
- ④子ども読書活動の広報

【現状】

図書館だよりで、各小学校の図書担当の先生や図書委員長にインタビューして、各学校図書館の利用状況や特色ある取り組みを発信しました。

併せて、熊本県の肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業を活用した「読み聞かせ講習会」を実施しました。

なお、他自治体の先進事例の情報を収集することで、移動図書館車の購入に際し宝くじ助成金を活用したり、図書館管理運用システムの更新では自館サーバー方式からクラウド方式※へ変更しました。

また、ホームページやフェイスブック等の媒体を利用して、図書館や図書などの情報を発信・提供し、併せて、システムの更新によりインターネットによる図書の予約も可能になりました。

※クラウド方式とは、インターネットなどのネットワーク経由でユーザーがサービスを受ける形態のことで、サーバーの設置が不要となります。

【課題】

少子化に伴い、子どもたちの図書館利用も減少傾向にあります。

今後は量から質へと視点を変え、読み聞かせに関する情報発信や、図書館を調べ学習の場として活用する等、新たな図書館の利用方法の提案や啓発が重要になります。



第2章 基本的な考え方

1 計画の目標

子どもにとって読書は生涯にわたる学びの基礎となるものです。読書によって子どもたちは多くの言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、更に創造力を豊かなものにしていきます。本計画では、全ての子どもたちが、どんな時でも、どんな場所でも自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的な読書環境の整備を推進するために5つの目標を掲げ、それぞれ具体的な方策を示し、取り組んでいきます。

なお、目標を達成するためには、令和2年7月豪雨災害からの復興への取り組みや、新型コロナウイルス感染拡大防止のための配慮が重要となります。

目標Ⅰ	<p>子どもが読書に親しむ機会の提供</p> <p>家庭、地域、学校等を通じて、子どもの発達段階に応じた効果的な取り組みを推進し、楽しく読書に親しむ機会の提供を積極的に行います。子どもの読書意欲を高めつつ、各学校段階で読書活動を相互につなげることで、生涯にわたる読書習慣を身に付けていくことができるよう取り組みます。</p>
目標Ⅱ	<p>子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備と充実</p> <p>豊かな読書環境に接することを通して、全ての子どもが目的や意欲に応じ読書の喜びや楽しさを味わうことができるよう、図書館と地域ボランティアや学校などが協力し、図書資料の整備や補完に取り組みます。併せて新しい図書館の在り方について検討します。</p> <p>またボランティアに対する講習会などを通じ、人材の育成を図るとともに、新たな人材の発掘にも努めます。</p>
目標Ⅲ	<p>図書館・学校・地域ボランティアなどとの連携の強化</p> <p>図書館、学校、ボランティア、民間団体など子どもの読書活動に携わる関係者がパートナーシップのもと、お互いを尊重しながら連携を深め、協働による読書活動の充実に取り組みます。</p>
目標Ⅳ	<p>ユニバーサルデザインの視点を踏まえた子どもの読書活動の推進</p> <p>ユニバーサルデザインの視点を踏まえ、障がいのある子どもだけでなく、全ての子どもたちが楽しく本と触れ合うことができるよう、点字絵本、ＬＬブックなどの多様な資料の収集や、サービスの提供に努めます。また、新たな図書館の在り方を検討する際には、バリアフリーの導入を検討します。</p>
目標Ⅴ	<p>子どもの読書活動を推進するための啓発と広報の推進</p> <p>子どもや地域住民を対象とした図書館まつりなどの多様なイベントを、引き続き開催します。併せて子どもの読書活動に関わる多種多様な情報を収集し、様々な機会や情報媒体を活用した啓発広報に努めます。</p>

2 計画の位置付け

第6次人吉市総合計画において、図書館は公民館とともに学習拠点や地域づくり、地域活動の拠点として充実した学習の機会を提供する場と位置付けられ、特に子ども読書活動に関しては、子どもが読書に親しむ機会を増やししながら、同時に読書環境の充実を図るとともに、子どもの読書活動推進啓発に努め、読書の習慣が身に付くような取り組みを行うこととしています。

また、第3次人吉市教育振興基本計画では、子どもの能力を伸ばし、社会の一員として「知・徳・体」の調和のとれた生きる力を育むことを教育目標の一つとして掲げています。各施設・団体・地域ボランティアとの連携・協力により、子どもが読書に親しむ機会を増やししながら、同時に読書環境の充実を図ります。併せて、様々なイベントを通じて、子どもの読書活動の啓発を推進し、読書の習慣が身に付く取り組みを実施するための「人吉市子ども読書活動推進計画」をここに定めます。

3 計画の対象

発達段階に応じ、目指す子どもの読書の姿を明らかにするとともに、家庭、地域、学校などにおける読書の機会の設定や、乳幼児期から、小学生期、中学生期、更には18歳に至る青少年期までを対象と位置付けます。なお、それぞれの段階における対象者の特性を考慮し、併せてその育成を目指す資質・能力を相互に繋ぐための読書活動推進計画とします。

また、図書館、学校、行政、ボランティアなどの連携・協力が必要なことから、子どもだけでなく、保護者や地域、ボランティアなど、子どもの読書活動に関わる個人や団体も対象とします。

4 計画の期間

今回の計画は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間と定め、事業の推進を図ります。



第3章 子どもの読書活動推進のための取り組み

目標Ⅰ 子どもが読書に親しむ機会の提供

(1) 家庭における子どもの読書活動の推進

家庭は、子どもの基本的な生活習慣を育む場であり、保護者による読み聞かせなどにより、子どもが初めて本と出会う場でもあります。

絵本の読み聞かせは親子のコミュニケーションを図るうえで良好な手段です。親子のスキンシップを伴った読み聞かせは、子どもの感情や想像力を豊かにし、いろいろな言葉に触れその意味を知ることによって語彙力も伸びていきます。更に小さい頃からの読み聞かせを通して、絵本にたくさん触れた子どもは本の魅力を知り、本好きで読書の習慣が身に付く子どもに成長します。

このため、家庭では、まず保護者が読書に対する理解を深め、自らも読書に親しみながら、発達段階に応じた読書活動の推進に取り組むことが大切です。

★具体的な取り組み

①読み聞かせによる読書の習慣付け

読書の習慣付けの重要性を理解したうえで、子どもの発達段階に応じて出来るだけ多く読み聞かせを行うことで、親子のコミュニケーションを図り、読書習慣の定着に向けた取り組みを推進します。

②保護者への支援

保護者に対して読み聞かせや優良図書に関する情報を提供し、読書の役割や読み聞かせによる効果などを発信します。併せて、おはなし会など、子どもが読書に親しむ機会と保護者への支援の場を設けます。

③家読時間の推進

家族間でノーテレビデーやスマートフォンを触らない日を定め、学校などと連携し家族みんなで読書に親しむ「うちどく（家読）」を推進します。

④ブックスタート事業の継続

図書館と保健センターとの協働により7か月児健診の際のブックスタート事業を引き続き展開し、保護者に対し読み聞かせや、読書の習慣付けの重要性を発信するとともに、保護者が読書に関して気軽に相談できる環境を整備します。併せて、図書館所蔵の優良図書の紹介・普及に努めます。

なお、事業の実施に際しては新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、特段の配慮を行います。

(2) 地域における子どもの読書活動の推進

地域社会全体で子どもの読書活動を推進するためには、読書活動の中核施設である図書館を中心に保健センター、子育て支援施設、校区コミュニティセンターなど、子どもの読書活動に関係する機関が協働し、あらゆる場所や機会において子どもの読書活動を推進することが大切です。社会教育団体をはじめ、こども食堂などの子育て支援団体との連携・協力により、発達段階に応じた様々な取り組みを行い、地域における子どもの読書活動を推進します。

★具体的な取り組み

①社会教育団体への働きかけ

P T A や子ども会など社会教育関係団体に、読み聞かせや「うちどく（家読）」の時間の必要性などを発信し、子どもの読書の習慣付けを働きかけます。

②子育て支援施設・団体に対する読書活動の支援

令和2年7月豪雨災害で被災した子育て支援「人吉市ほっとステーション九ちゃんクラブ」の復旧後の連携継続はもちろん、新たにこども食堂や学童保育など、子育て支援団体への貸出文庫や大型絵本・大型紙芝居などの図書資料の提供により支援し、読書活動を推進します。

③校区コミュニティセンター図書室の蔵書充実の支援

豪雨災害により図書室の書籍が汚損した、東西コミュニティセンターと西瀬コミュニティセンターに対し、施設復旧後、図書館蔵書で複数冊所蔵している本や市民からの寄附本などにより、図書室の蔵書充実の支援を行います。

(3) 幼稚園・保育園・認定こども園における子どもの読書活動の推進

幼稚園・保育園・認定こども園は子どもが早い時期に本と出会い、絵本や物語などに親しむことができる場所です。

幼児期の読み聞かせは子どもの読書の習慣付けに大きな効果をもたらし、また、先生や友達と一緒に本を読むことで、小学校入学時に備えるべき、聞く態度や信頼感、協調性が養われます。併せて年長園児が、移動図書館車で図書を選んだり、貸し出しを体験することで、小学校低学年の小学校生活への円滑な接続に資することが可能となります。

また、保護者に対しては、絵本の紹介や読み聞かせによる家族の触れ合いの大切さを啓発・普及し、併せて読書に関して気軽に相談できる場として、園と連携・協力して家庭での読書活動を支援します。

★具体的な取り組み

①進んで本を読む子どもの育成

移動図書館車巡回時に園児自らが本を選び、友達同士で本についてお話するなど、進んで読書に親しむ姿が多く見られます。これらの体験により学校図書館のスムーズな利用に繋がり、また、公共物である本を大切に作る心が育まれます。今後も園児の年齢に応じた絵本の選定を行い、絵本や物語に興味や関心を持ち、自ら進んで本を読む子どもの育成に努めます。

②保護者への情報提供

幼稚園・保育園・認定こども園を通じ、図書館だよりで新着本や図書館でのイベントなどの図書館情報を提供します。併せて、図書館だよりで図書や読み聞かせなどに関する優良サイトのQRコードを掲載し、保護者が簡単に情報を入力できるような取り組みを推進します。

③小学校とのパートナーシップ※による取り組みの推進

幼児の学びから小学校低学年の学校生活への円滑な接続に資するため、小学生による幼児へのおはなし会の開催や幼児のための小学校図書館の見学会の実施など、幼稚園・保育園・認定こども園と小学校が相互理解の視点に立った取り組みを図書館として提案、協力しながら推進します。

※パートナーシップとは対等な関係（従属的、依存的でない関係）のことで、行政、民間、ボランティアなどの関係において重要な概念の事です。



(4) 学校における子どもの読書活動の推進

学校は子どもが生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げることができる重要な場所です。

「読み、書き、話すなど言葉の教育」を重視し、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていくうえで読書は欠くことのできない活動であることを念頭に、学校図書充実のための支援と併せて、読書活動の推進とその習慣化に努めます。

★具体的な取り組み

①自主的な読書活動への取り組み

児童生徒がそれぞれの発達段階に応じて読書に対し興味や関心を持ち、自主的に読書の習慣付けができるよう、全校一斉読書や、ボランティア・保護者による読み聞かせ、委員会活動など、各学校の実情に合わせた読書活動を今後も継続、拡充していきます。

②蔵書冊数の整備・充実

「学校図書館図書標準」に従い、学校図書館の蔵書冊数の整備・充実に努めるとともに、図書館による移動図書館車や貸出文庫などの活用により、それらの機能の補完を支援します。また、児童生徒が利用しやすい学校図書館になるよう、読書環境の整備を支援します。

③インターネットを活用した情報の収集・提供

学校図書館管理システムや図書館ホームページなどを活用し、蔵書の検索や優良図書を紹介し、児童生徒の情報収集を支援します。また令和2年度、小学3年生以上にひとり1台導入されたタブレット端末を活用し、子どもたち自らが図書の情報や電子書籍などの優良なコンテンツに触れるなど、ICTを基盤とした先端技術などを効果的に活用します。

④学習活動を支援するための図書館の活用

図書館では学校における様々な調べ学習や読書活動を支援するため、多種多様な資料を収集・提供し、児童生徒の自主的・積極的な学習活動を支援します。併せて、今後は移動図書館車や貸出文庫のほか、増床後の図書館の学習室を調べ学習の拠点として活用するなど、新たな図書館の利用法を提案します。

また、学校でのICT機器の環境整備に伴い、今後ICTを活用した学習に対する支援の検討を進めます。

⑤地域ボランティアとの連携の強化

図書館では、地域ボランティアや保護者による学校での読み聞かせやおはなし会を継続的に支援するため、大型絵本や大型紙芝居の蔵書を更に充実するとともに、優良図書情報を発信するなど、連携の強化を図ります。

⑥学校図書館担当職員のスキルアップ

図書館と学校図書館担当職員との合同研修会を通じ、司書資格を持つ図書館職員からの技術指導と意見交換により、学校図書館において、日常業務に携わる学校図書館担当職員のスキルアップを図り、学校図書館の充実を図ります。



目標Ⅱ 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備と充実

(1) 図書館における施設及び読書環境の充実

図書館は、子どもにとって豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選び、読書の楽しみを知ることができる大切な場所です。子どもの読書活動を推進するため、図書館では発達段階に応じた幅広い蔵書の充実を図るとともに、専門的な知識を持った司書によるレファレンスサービス※の強化やインターネットなどを活用した情報検索システムの充実を促進します。

なお、令和4年度、市役所仮本庁舎機能が新庁舎に移転した後の新たな図書館の在り方について、十分検討を行ったうえで図書館スペースの増床による学習室の拡充や児童室の確保などを推進していきます。

※レファレンスサービスとは必要な情報を求めている利用者に対して、その情報の回答について図書館職員が図書館などの資料とネットワークを活用して、資料紹介や情報提供などを行うことです。

★具体的な取り組み

①発達段階に応じた良質図書の収集と読書活動の接続

幼児期からの読書習慣の育成のため、「赤ちゃん絵本」や「絵本大賞受賞作品」、小学生から高校生を対象とした読書感想文・感想画課題図書、緑陰図書など、発達段階に応じた幅広いジャンルの蔵書の収集に努めます。併せて大型絵本などの児童向け図書や青少年向けのヤングアダルトジャンルの充実により、幼小、小中、中高といった各学校段階間の円滑な読書活動の接続を図ります。

②障がいのある子どもに配慮した資料の収集

障がいのある子どもや母国語が日本語でない子どもたちに配慮し、「点字絵本」や「LLブック」などの図書資料を今後も積極的に収集します。

③ヤングアダルト図書の収集

小学校から中学校、また、中学校から高校へと進学する際に読書離れの傾向が多くみられることから、YA「ヤングアダルト」ジャンルの充実を図りながら、中・高校生におすすめの本などの情報を発信し、各学校段階での円滑な読書活動の接続を促進します。

④子ども向けの郷土資料の発掘と収集

人吉球磨や熊本県内の歴史や民話、伝説など、子ども向けに作成された資料の発掘、収集に努めます。併せて令和2年7月に発生した豪雨災害の報道資料などの収集・整理・保存を行い、防災教育などの取り組みを支援するとともに次世代の子どもたちへの継承を図ります。

⑤学校のICT環境の整備に伴う支援の充実

学校のICT環境が整備される中、子ども向けのみならず、保護者や教職員向けを含め、パソコンやタブレットの基本的な操作方法や、プログラミング、ネットワーク、情報セキュリティなどに関する資料を収集し、ICTを活用した学習活動を支援します。

⑥市役所仮本庁舎機能移転後の図書館の在り方の検討

市役所仮本庁舎機能移転後の図書館では、より多くの利用者が満足できる図書館、令和2年7月豪雨災害や新型コロナウイルス感染拡大などで足が遠のいた利用者が再び訪れたい図書館を目指します。そのために、安全性の確保やユニバーサルデザインの観点、費用対効果などとともに、利用者のニーズを把握し、十分な検討を行ったうえで、狭隘（きょうあい）な図書館スペースの増床を図り、一般向けの図書館機能と、学習室や「児童コーナー」などの機能や用途別にまとめて、効率的に配置します。

(2) 幼稚園・保育園・認定こども園及び学校の読書環境の充実

子どもたちが生活するうえで、最も長く大事な時間を過ごす幼稚園・保育園・認定こども園及び学校の読書環境の充実に寄与するため、図書館では移動図書館車巡回をはじめ、貸出文庫（団体貸出）などで活用できる蔵書を充実し、各施設の図書資料の補完を支援します。併せて様々な研修会を通じ、子どもたちの図書館の利用促進や図書担当職員との連携・相互理解により読書環境の充実に努めます。

★具体的な取り組み

①移動図書館車などによる図書資料の補完

新しい移動図書館車「新さわやか号」で引き続き、市内の幼稚園・保育園・認定こども園及び市内全小中学校を巡回し、各施設の図書資料の補完と利用拡大促進を図ります。併せて貸出文庫や大型絵本、大型紙芝居なども活用し、子どもたちが身近な場所で良い絵本と出会えるよう支援します。また、子ども向け図書の整理や除籍を進め、可能な限り新しい資料の収集に努めます。

②様々な手法による優良図書・推薦図書などの紹介

従来の紙媒体による広報ひとよしや図書館だよりに加え、情報の即時性に優れたインターネットのリンク機能やスマートフォンのフェイスブックなどの様々な手法を活用し、優良図書・推薦図書、及び読み聞かせの重要性やスキル、図書館情報の発信を促進します。

③研修の積極的な受け入れ

中・高校生のインターンシップ（就業体験）は、それぞれの日数に応じて図書館の概要や役割を理解させるとともに、移動図書館車での巡回や選書体験など生徒の興味や関心の高いカリキュラムを作成し、図書館をより身近な場所に感じることができるよう、受け入れを積極的に継続します。併せて教職員の社会体験研修や大学生の司書実習などに関しても臨機応変に対応します。

④総合的な学習の時間などに配慮した最新資料の収集

日常生活では、SDGsや防災、感染症関係など、常に新しい情報が発信されています。児童生徒も調べ学習などを通じて新しい情報を正しく理解できるよう、最新資料を収集するとともに、レファレンスサービスの充実に努めます。

⑤園や学校図書館との連携

図書館と学校図書館担当職員との合同研修会を通じ、熊本県の「肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業」や図書館の学校支援事業などの情報を発信しながら、図書館と学校図書館の連携・相互理解をさらに深め、双方の読書活動の推進を図ります。併せて移動図書館車巡回時に子どもだけでなく、園や教諭・学校図書館の担当職員とのコミュニケーションをさらに深めます。

(3) 地域の読書環境の充実

地域における子どもの読書環境の充実を図るには、ハード面の整備やその支援だけではなく、ソフト面でのマンパワーの確保と活用が重要です。地域の読書活動を支えるボランティア団体や個人のスキルアップを図りながら、ボランティアの輪を広げる取り組みや新たな人材の発掘を支援します。

★具体的な取り組み

①地域ボランティアのスキルアップと拡充

新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、熊本県の「肥後っ子いきいき読書アドバイザー事業」を活用し、発声法やアクセントなど読み聞かせの基本を学ぶ研修会などを通じ、ボランティア団体や個人のスキルアップに寄与するとともに、地域で子ども読書に携わっていただくボランティア団体同士の交流の促進や新たな人材の発掘に努めます。

目標Ⅲ 図書館・学校・地域ボランティアなどとの連携の強化

(1) 図書館・学校・地域ボランティアとのパートナーシップによる取り組みの推進

子どもの読書活動推進は、図書館が主体となりつつも、子どもの読書活動に携わる関係者が相互に連携するとともに、適宜補完しながら一体となって取り組むことがより効果的です。図書館は市内全域の子どもを対象に読書活動を推進しますが、より小さいコミュニティである地域や学校単位で、図書館・学校・地域ボランティアなどが連携し対等の立場で読書活動を推進することで、より幅広く中身の濃いものとする事が可能となります。

★具体的な取り組み

①学校などにおける子どもの読書活動の推進

経験が少ない保護者が気軽に読み聞かせに参加できるように、既に読み聞かせを行っている個人や団体からいただいた「大型絵本読み聞かせレビュー」や読み聞かせ講習会の開催などの情報を発信します。また、図書館がボランティアと利用したい側のマッチングを行い、ボランティア活動の学校や地域への広がりに繋がります。

目標Ⅳ ユニバーサルデザインの視点を踏まえた子どもの読書活動の推進

(1) 誰もが楽しめる図書の整備とサービスの提供

障がいのある子どもや母国語が日本語でない子どもなどを含め、全ての子どもたちが自ら本に接し、読書の喜びや感動を味わえるよう、図書館・学校・地域ボランティアがユニバーサルデザイン※の視点を踏まえ、連携・協力しながら子どものニーズに応じた読書活動を推進することが必要です。

※ユニバーサルデザインとは年齢、性別、国籍（言語）や障がいの有無に関係なくだれもが利用できるような製品、建物や環境のデザインを意味するものです。

★具体的な取り組み

①多様な図書の収集とサービスの提供

図書館では、LLブックや点字図書の蔵書充実に加え、布絵本や録音資料、字幕付きDVD、多言語の図書など多様な資料の収集を促進します。併せて既に実施済みの移動図書館車のリフトや、拡大鏡、筆談ボードの常設、資料目録の点訳化などのほか、更なるサービスの拡充を図ります。

②新たな図書館の在り方検討の中でのユニバーサルデザインの導入検討

現在の図書館は複合施設の2階に位置し、バリアフリーが完備されているとは言えませんが、カルチャーパレスの構造上1階に図書館を移設することは困難です。市役所仮本庁舎機能移転後の図書館の在り方については、点字ブロックや点字案内板、外国語表示、授乳室などの設置や、書架の間隔を検討し車椅子やベビーカーを御利用されている方などを含め誰もが使いやすい図書館を目指します。

目標Ⅴ 子どもの読書活動を推進するための啓発と広報の推進

(1) 子どもの読書活動推進のための各種イベントの開催

今後図書館では3密回避や換気など新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、読書啓発に係る様々なイベントを開催し、子どもの読書の必要性や重要性について、子ども自身や家庭で深く考える機会を提供するとともに、臨時休館に伴う利用者の図書館離れからの回復を目指します。

★具体的な取り組み

①新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮したイベントの開催による読書活動の啓発

図書館では、図書館まつりをはじめ、中学生以下を対象とした多読者の表彰、一日司書体験など様々なイベントを実施していますが、今後は新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しつつ、新たな図書館で子どもの読書活動推進のための様々なイベントを展開しながら、図書館から足が遠のいた利用者が再び図書館を訪れたいくなるような取り組みを進めてまいります。

②読書感想画作品募集

人吉球磨の未就学児を対象にした読書感想画コンクールは非常に多くの作品が応募されているため、今後も継続して実施します。今後カルチャーパレスホール棟を改修する場合などは発表や表彰の場の検討が必要になります。

③図書館と学校の共催による啓発

童話発表大会は、児童が童話に親しみ、創作活動を活発にする機会を提供し、読書意欲の向上と豊かな人間性の育成のために非常に有意義な事業です。今後も図書館と学校の共催により、本市独自の童話発表大会を可能な限り継続し、子どもの自発的、積極的な読書活動の啓発に努めます。

(2) 子どもの読書活動推進のための情報の収集・提供

図書館では、子どもの読書活動に関する情報を定期的に収集し、広く啓発と広報を行い、学校や地域において有効活用されるよう取り組みます。

★具体的な取り組み

①各種団体の取り組みや活動状況の把握、情報共有と活用

子ども読書活動について、幼稚園・保育園・認定こども園、学校、地域ボランティアなどが取り組む事業の情報を収集・共有するとともに、事業の有効な活用が図られるよう、その支援に努めます。

②国、熊本県、日本図書館協会などを通じた先進的な事例の情報提供

国や県、日本図書館協会による他の自治体や民間団体の効果的・先進的な事例の情報を提供し、実践を促すことで、本市全体の読書活動推進の気運を高めます。

③優良団体や個人の表彰・広報

国や県が行う優良読書グループ表彰などへ、市内の子ども読書活動推進に関する取り組みや功労のある個人や団体を推薦し、併せて「広報ひとよし」や「図書館だより」などで紹介します。



第4章 子どもの読書活動推進体制の充実

1 人吉市子ども読書活動推進会議の図書館への継続的な支援

人吉市子ども読書活動推進会議は行政、学校、幼稚園・保育園・認定こども園、ボランティアグループなど、日頃から子どもの読書活動推進に携わっている委員で構成されています。通常、毎年2回の会議を開催し（計画策定年は4回）本計画の効果的な推進を図るための進捗検証や、より良い施策の提言などを頂戴していますが、今後も更なる本市の子ども読書活動推進事業の促進のため、図書館との連携・協力を求めています。

2 関係機関との連携・協力

本市の子ども読書活動推進の取り組みは本計画に沿って進めますが、本市図書館は球磨地域最大の公立図書館でもあることから、熊本県図書館活動振興協議会球磨支部を中心とし、各町村と連携しながら球磨郡全体の子どもの読書活動推進活動も働きかけていく必要があります。併せて熊本県立図書館や、全国の自治体図書館などとも連携を深め、先進事例や施策の情報などを参考としながら、本計画の効果的な推進に努めます。



令和8年度末の目標数値

	具体的指標	令和元年度実績	令和2年度実績	令和8年度目標	備考
読書環境の充実	☆子ども一人あたりの児童書蔵書冊数	5.8冊	6.1冊	7.0冊	児童書蔵書÷18歳以下人口
読書活動の推進	☆子ども一人あたりの年間貸出冊数	3.8冊	2.2冊	4.1冊	18歳以下の貸出冊数÷18歳以下人口

① 第4次人吉市子ども読書活動推進計画の体系

人吉市総合計画

- ・人吉市教育振興基本計画
- ・人吉市教育基本方針
- ・人吉市教育目標

推進活動

家庭、地域、幼稚園・保育園・認定こども園、学校における読書活動の推進

図書館、幼稚園・保育園・認定こども園、学校、地域等の読書環境の充実

パートナーシップによる協働
利用しやすい図書館

読書活動の啓発

人吉市子ども読書活動推進計画

計画の目標

目標Ⅰ
子どもが読書に親しむ機会の提供

目標Ⅱ
子ども読書の読書活動を推進するための読書環境の整備と充実

目標Ⅲ
図書館・学校・地域ボランティアなどとの連携の強化

目標Ⅳ
ユニバーサルデザインの視点を踏まえた子どもの読書活動の推進

目標Ⅴ
子ども読書の読書活動を推進するための啓発と広報の推進

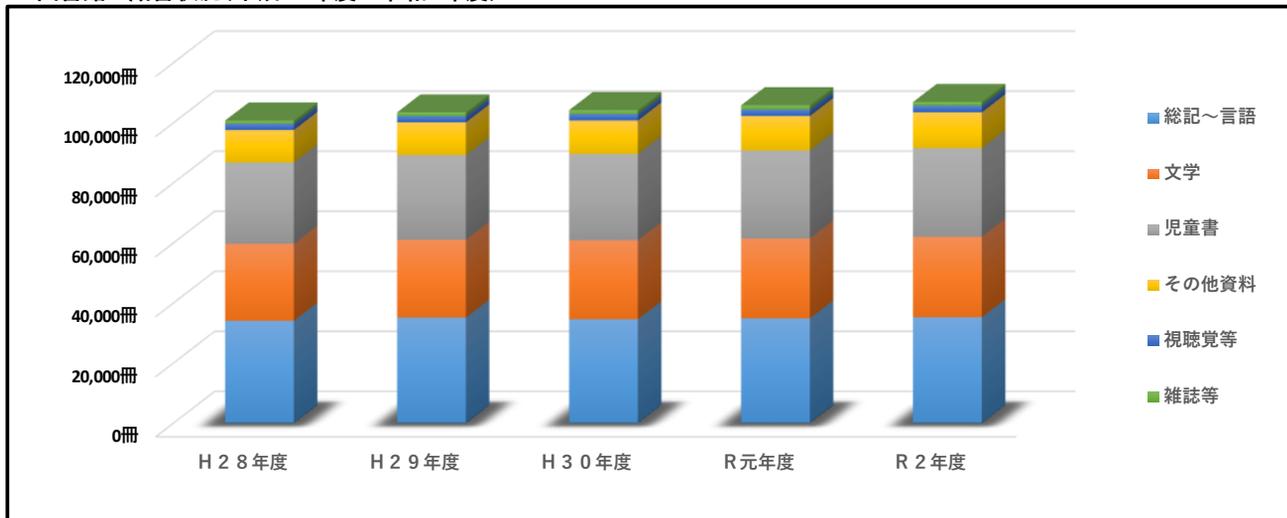
具体的な取り組み

(1) 家庭における子ども読書の読書活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 読み聞かせによる読書の習慣付け ② 保護者への支援 ③ 家読時間の推進 ④ フックスタート事業の継続 ⑤ 社会教育団体への働きかけ ⑥ 子育て支援施設・団体に對する読書活動の支援 ⑦ コミュニティセンター図書室の図書充実の支援
(2) 地域における子ども読書の読書活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 進んで本を読む子どもの育成 ② 保護者への情報提供 ③ 小学校とのパートナーシップによる取り組みの推進
(3) 幼稚園・保育園・認定こども園における子ども読書の読書活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 自主的な読書活動への取り組み ② 蔵書冊数の整備・充実 ③ インターネットを活用した情報の収集・提供 ④ 学習活動を支援するための図書館の活用 ⑤ 地域ボランティアとの連携の強化 ⑥ 学校図書館担当職員のスキルアップ
(4) 学校における子ども読書の読書活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> ① 発達段階に応じた良質図書の収集と読書活動の継続 ② 障がいのある子どもにも配慮した資料の収集 ③ ヤングアダルト図書の収集 ④ 子ども向けの郷土資料の発掘と収集 ⑤ 学校のICT環境の整備に伴う支援の充実 ⑥ 市役所飯本庁舎機能移転後の図書館の在り方の検討 ⑦ 移動図書館車などによる図書資料の補充
(1) 図書館における施設及び読書環境の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 様々な手法による優良図書・推薦図書などの紹介 ② 研修の積極的な受け入れ ③ 総合的な学習の時間などに配慮した最新資料の収集 ④ 園や学校図書館との連携
(2) 幼稚園・保育園・認定こども園及び学校の読書環境の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域ボランティアのスキルアップと拡充
(3) 地域の読書環境の充実	<ol style="list-style-type: none"> ① 図書館・学校・地域ボランティアとのパートナーシップによる取り組みの推進
(1) 誰もが楽しめる図書館の整備とサービスの提供	<ol style="list-style-type: none"> ① 多様な図書の収集とサービスの提供 ② 新たな図書館の在り方検討中でのユニバーサルデザインの導入検討
(1) 子ども読書の読書活動推進のための各種イベントの開催	<ol style="list-style-type: none"> ① 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮したイベントの開催 ② 読書感想画作品募集 ③ 図書館と学校の共催による啓発
(2) 子ども読書の読書活動推進のための情報の収集・提供	<ol style="list-style-type: none"> ① 各種団体の取り組みや活動状況の把握、情報の共有と活用 ② 国、熊本県、日本図書館協会などを通じた先進的な事例の情報提供 ③ 優良団体や個人の表彰・広報

補 足 資 料

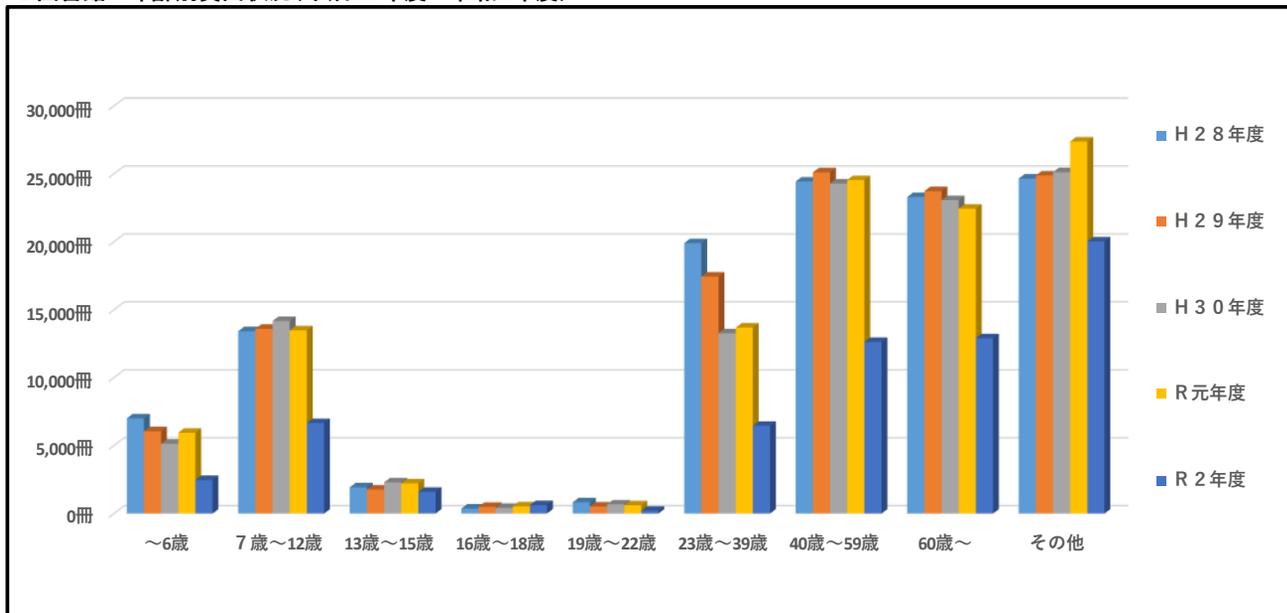
【人吉市図書館】

○図書館の蔵書状況(平成28年度～令和2年度)



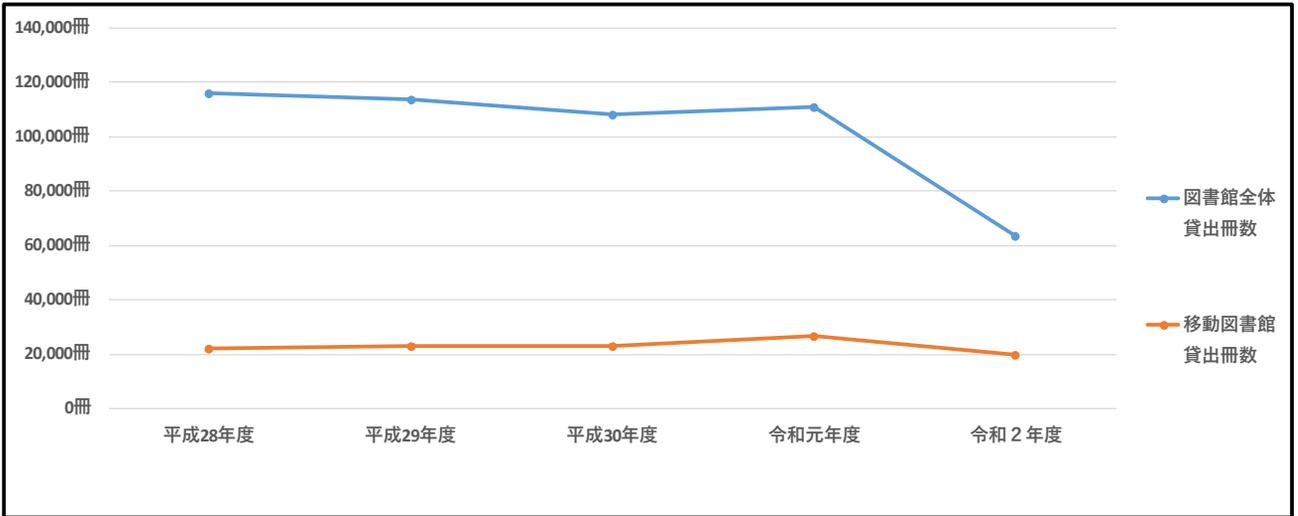
	総記～言語	文学	児童書	その他資料	視聴覚等	雑誌等	合計
H28年度	34,085	25,587	27,129	10,822	2,045	1,063	100,731冊
H29年度	35,153	25,906	28,169	10,931	2,076	1,217	103,452冊
H30年度	34,573	26,312	28,710	11,168	2,125	1,304	104,192冊
R元年度	34,853	26,613	29,295	11,493	2,158	1,382	105,794冊
R2年度	35,241	26,760	29,546	11,955	2,223	1,162	106,887冊

○図書館の年齢別貸出状況(平成28年度～令和2年度)



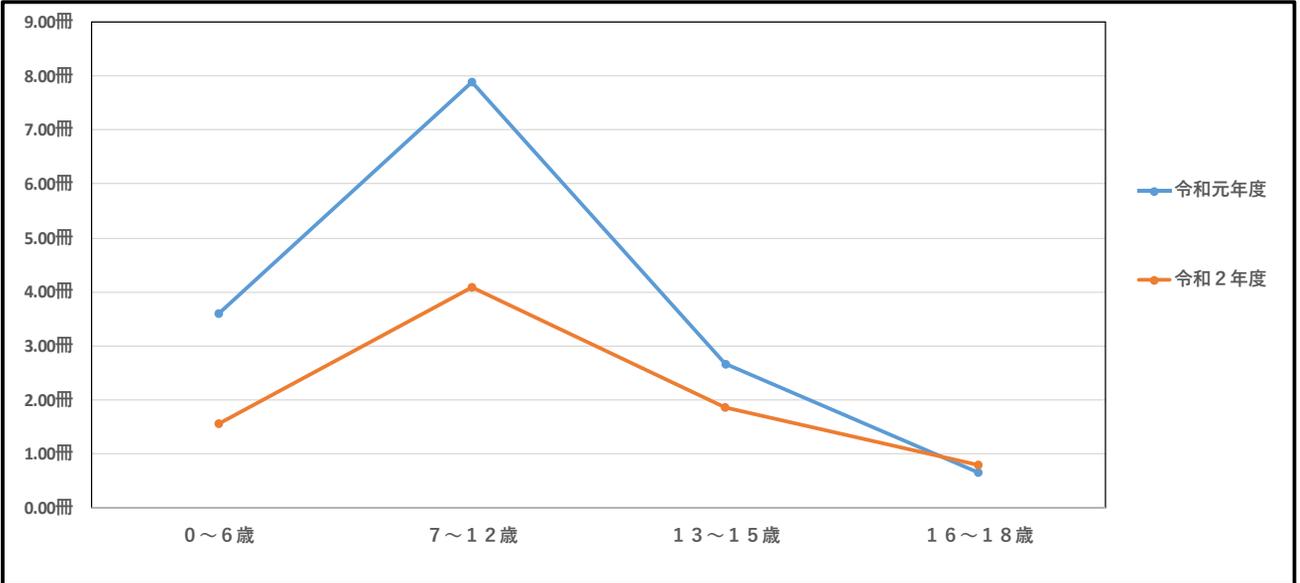
	～6歳	7歳～12歳	13歳～15歳	16歳～18歳	19歳～22歳	23歳～39歳	40歳～59歳	60歳～	その他	合計
H28年度	7,006	13,428	1,932	365	829	19,903	24,439	23,295	24,656	115,853冊
H29年度	6,060	13,600	1,770	492	519	17,442	25,111	23,729	24,879	113,602冊
H30年度	5,139	14,172	2,294	418	674	13,264	24,283	23,064	25,121	108,429冊
R元年度	5,946	13,485	2,225	530	606	13,686	24,543	22,438	27,382	110,841冊
R2年度	2,471	6,661	1,600	623	211	6,460	12,627	12,900	20,029	63,582冊

○図書館全体の貸出冊数と移動図書館の貸出冊数(平成28年度～令和2年度)



	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
図書館全体貸出冊数	115,853	113,602	108,429	110,841	63,582
移動図書館貸出冊数	22,187	22,867	23,108	26,847	19,675

○図書館一人当たりの貸出冊数(令和元年度・令和2年度)



項目		0~6歳	7~12歳	13~15歳	16~18歳
令和元年度	人口数	1,657人	1,709人	835人	819人
	貸出冊数	5,946冊	13,485冊	2,225冊	530冊
	1人当たり貸出冊数	3.59冊	7.89冊	2.66冊	0.65冊
令和2年度	人口数	1,591人	1,633人	860人	780人
	貸出冊数	2,471冊	6,661冊	1,600冊	623冊
	1人当たり貸出冊数	1.55冊	4.08冊	1.86冊	0.80冊

② 子どもの読書活動に係るアンケート調査結果

人吉市図書館では、令和3年7月に下記関係機関などを対象にアンケート調査を実施しました。
 ①幼・保・認定こども園8園（保護者127人）②市内小学校6校（児童141人、保護者134人）、③中学校3校（生徒73人）、④15歳から18歳（高校生など30人）、④の方にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

【小中学校の取り組み状況】

○問1 学校行事として、「春・秋の読書週間」を設定し、実施していますか。

1:春・秋の両方とも実施している	小学校	4校	中学校	0校
2:春のみ実施している	小学校	0校	中学校	2校
3:秋のみ実施している	小学校	2校	中学校	1校
4:実施していない	小学校	0校	中学校	0校

○問2 学校行事として、「10分間読書」を実施していますか。

1:毎日	小学校	0校	中学校	0校
2:週1回程度	小学校	6校	中学校	2校
3:月1回程度	小学校	0校	中学校	0校
4:実施していない	小学校	0校	中学校	1校

○問3 学校では、「家読」を推進していますか。

1:推進している	小学校	6校	中学校	1校
2:行っていない	小学校	0校	中学校	2校

○問4 学校では、「ボランティアの方による読み聞かせ」を実施していますか。

1:実施している	小学校	6校	中学校	1校
2:実施していない	小学校	0校	中学校	2校

○問5 学校では、児童・生徒に対し推薦する図書一覧表がブックリストとしてありますか。

1:ある	小学校	5校	中学校	0校
2:ない	小学校	1校	中学校	3校

○問6 学校では、独自に「図書館だより」を定期発行していますか。

1:発行している	小学校	4校	中学校	1校
2:発行していない	小学校	2校	中学校	2校

○問7 学校では、学校ホームページ等に図書館案内コーナーを設けていますか。

1:設けている	小学校	0校	中学校	0校
2:設けていない	小学校	6校	中学校	3校

○問8 令和元年度において、児童・生徒が学校図書館で本を借りる一人平均は何冊ですか。

アンケート実施年度	小学校	中学校
令和元年度1人当たり	95冊	15冊
平成27年度1人当たり	87冊	20冊

○問9 令和元年度において、学校図書館で本を借りる学年別の一人平均は何冊ですか。

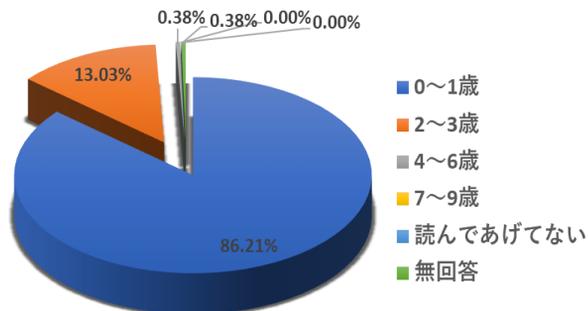
	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
令和元年度1人当たり	87冊	88冊	115冊	90冊	88冊	96冊	29冊	9冊	11冊
平成27年度1人当たり	127冊	115冊	81冊	71冊	79冊	57冊	25冊	13冊	19冊

○問10 令和2年7月豪雨災害の前と後で児童生徒の読書活動に変化があったと思いますか。

1:変わらない	小学校	4校	中学校	3校
2:増えた	小学校	2校	中学校	0校
3:減った	小学校	0校	中学校	0校

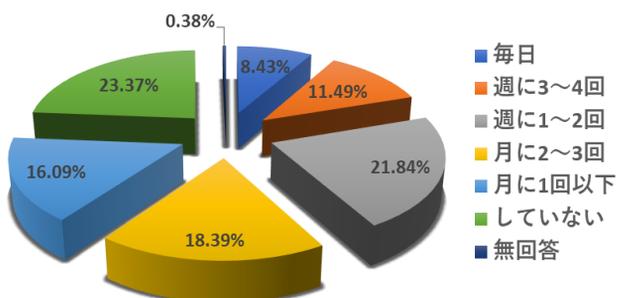
【保護者回答 261人】

あなたが、初めてお子さんに本を読んであげたのは、
お子さんが何歳の時ですか。



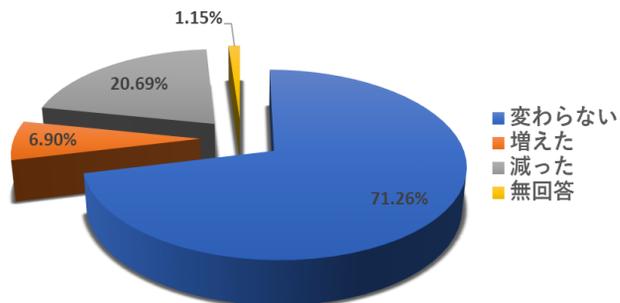
0～1歳	2～3歳	4～6歳	7～9歳	読んであげてない	無回答
86.21%	13.03%	0.38%	0.00%	0.00%	0.38%

あなたは、令和2年7月豪雨災害前お子さんに
どれぐらいの頻度で本を読んであげていましたか。



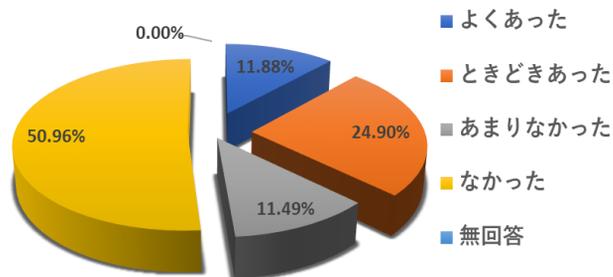
毎日	週に3～4回	週に1～2回	月に2～3回	月に1回以下	していない	無回答
8.43%	11.49%	21.84%	18.39%	16.09%	23.37%	0.38%

あなたは、豪雨災害後お子さんに本を読んであげる
頻度に変化はありましたか。



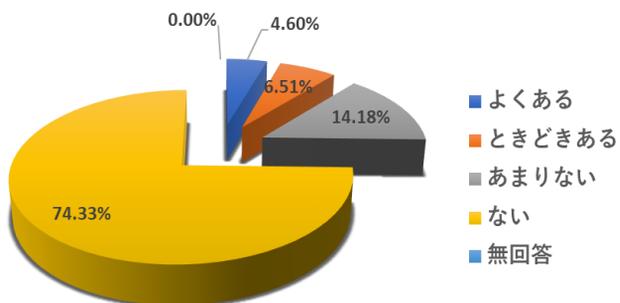
変わらない	増えた	減った	無回答
71.26%	6.90%	20.69%	1.15%

あなたは、豪雨災害前お子さんと一緒に人吉市
図書館を利用することがありましたか。



よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	無回答
11.88%	24.90%	11.49%	50.96%	0.00%

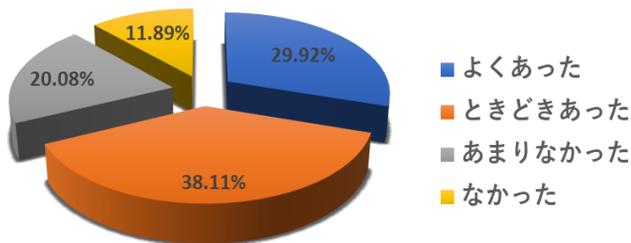
あなたは、豪雨災害後お子さんと一緒に人吉市
図書館を利用することがありましたか。



よくある	ときどきある	あまりない	ない	無回答
4.60%	6.51%	14.18%	74.33%	0.00%

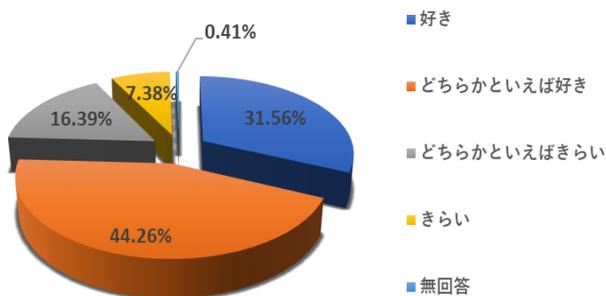
【児童・生徒回答 244名】

あなたは、小さい頃、家庭の人に本を読んでもらった事がありますか。



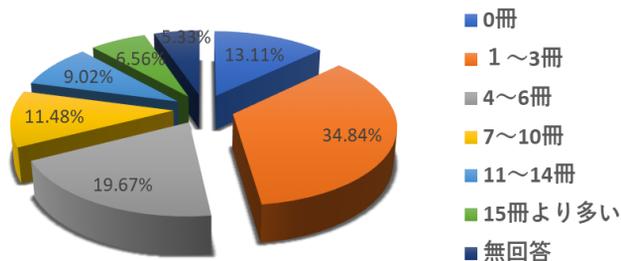
よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった
29.92%	38.11%	20.08%	11.89%

あなたは、本を読むことが好きですか。



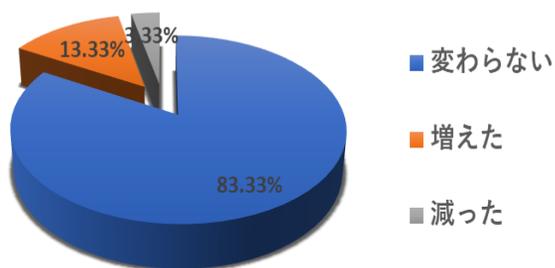
好き	どちらかといえば好き	どちらかといえばきらい	きらい	無回答
31.56%	44.26%	16.39%	7.38%	0.41%

あなたは、令和2年7月豪雨災害前は1ヶ月に何冊くらい本を読んでいたか。



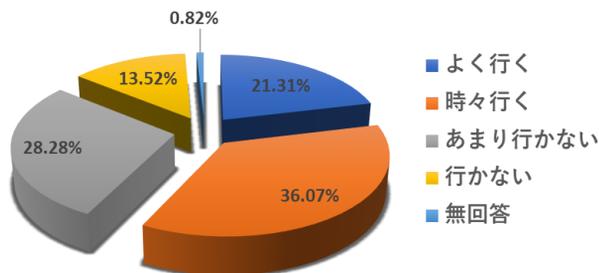
0冊	1～3冊	4～6冊	7～10冊	11～14冊	15冊より多い	無回答
13.11%	34.84%	19.67%	11.48%	9.02%	6.56%	5.33%

あなたが1ヶ月に本を読む冊数は、令和2年7月豪雨災害後、変化がありましたか。



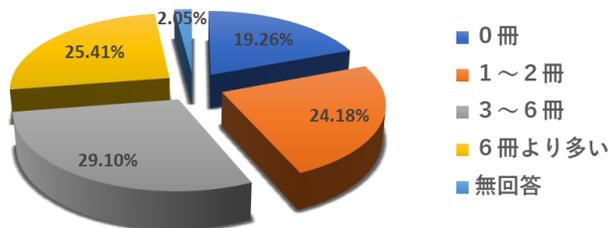
変わらない	増えた	減った	無回答
70.90%	11.89%	10.25%	6.97%

あなたは、学校の図書館によく行きますか。



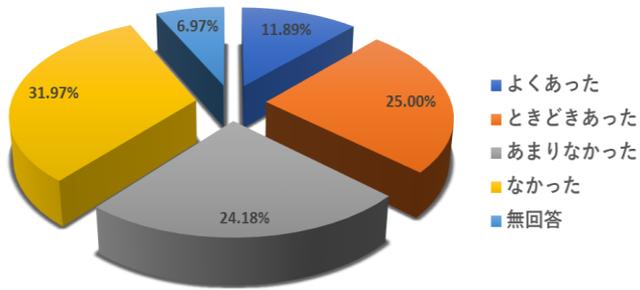
よく行く	時々行く	あまり行かない	行かない	無回答
21.31%	36.07%	28.28%	13.52%	0.82%

あなたは、学校の図書館から1ヶ月に何冊ぐらゐの本をかりますか。



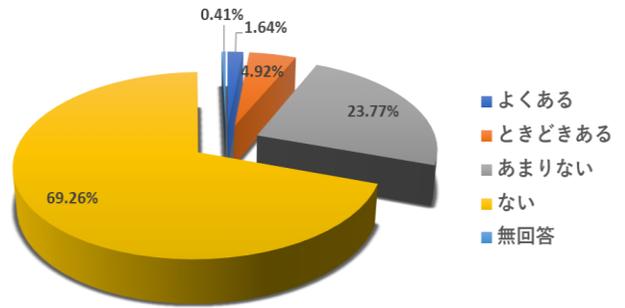
0冊	1～2冊	3～6冊	6冊より多い	無回答
19.26%	24.18%	29.10%	25.41%	2.05%

あなたは、豪雨災害前、人吉市図書館を利用することがありましたか。



よくあった	ときどきあった	あまりなかった	なかった	無回答
11.89%	25.00%	24.18%	31.97%	6.97%

あなたは、豪雨災害後、人吉市図書館等を利用することがありますか。



よくある	ときどきある	あまりない	ない	無回答
1.64%	4.92%	23.77%	69.26%	0.41%

③ 令和3年度人吉市子ども読書活動推進会議委員名簿

令和3年4月1日現在

区分	氏名	所属等	備考	
1	行政	立場 康宏	市社会教育課	新
2		那須 五鳩	市保健センター	新
3	学校	白濱 由香	人吉市立東間小学校	新
4		板崎 成美	人吉市立第一中学校	新
5	幼児 (家庭)	水俣 顕子	人吉幼稚園	新
6		東 順子	蓬莱保育園	新
7		西 由紀	こぼと保育園	新
8	地域	上村 寿子	読み聞かせボランティア	新
9		工藤美和子	読み聞かせボランティア	再
10		高田美佐子	NPO法人人吉球磨陽だまりの会 (九ちゃんクラブ)	再

事務局 (図書館)	立山 健介	図書館長兼図書館係長	
	村口 富美	主席	司書有資格者
	永田 博子	非常勤職員	司書有資格者

任期 令和3年4月1日～令和5年3月31日

第4次人吉市子ども読書活動推進計画

発行 令和4年3月 人吉市教育委員会

編集 人吉市教育委員会 人吉市図書館

〒868-0015人吉市下城本町1578-1

TEL0966-24-3518 FAX0966-24-4329